

# ごみ処理の現状

資源循環推進課 0239・6267

私たちが衛生的な生活を送るためには、生活から出るごみを適切に処理していく必要があります。

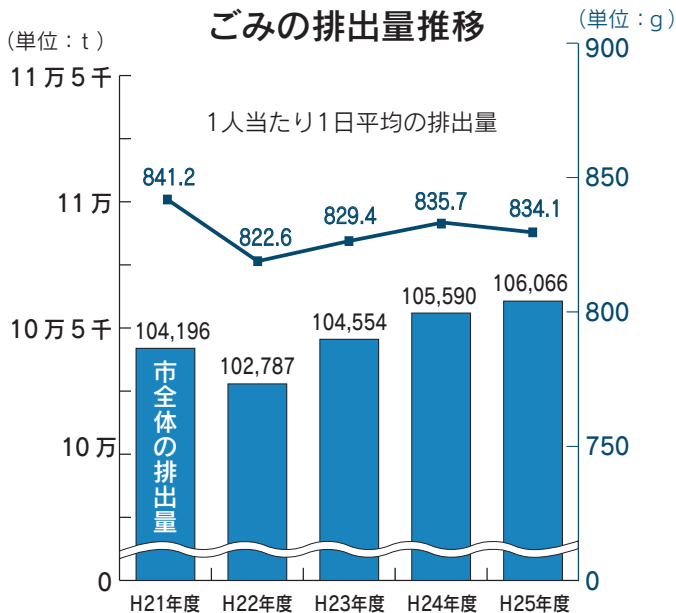
平成25年度に市がごみ処理に要した経費がまとまりました。排出量の傾向などから、ごみ処理の状況と今後についてお知らせします。

## ごみ処理の状況

平成25年度に市内から排出されたごみの量は、集団回収で出された資源物を除くと10万6066tでした。平成24年度と比較すると475.8tの増加です。全体の量は増えましたが、人口も増えているため、1人1日当たりに換算すると平均834.1g。同24年度と比べると1.6gの減少となっています。

ごみの排出元別で見ると、家庭からのごみは7万8745tで、前年度と比較すると46t、割合では0.06%減少しています。また、事業者から出されたごみの量は、2万7262tで、前年度と比較すると512.1t、割合では1.91%の増加となりました。不法投棄は、59.1t、前年度から9.7t、割合では19.62%増えました。

## ごみの排出量推移



平成25年度のごみの年間排出量は、過去5年で最も少なかった同22年度と比較して約3,279t、割合で3.2%の増加となっています。

### 資源化センター



維持管理費として、機器類の消耗部品の補修や交換経費が必要。

稼動…平成22年4月  
建設費…約193億円  
年間経費…11億5,381万円

### 東清掃センター



建設後28年が経過し、維持管理費が増加。資源化センター稼動で処理量は減少傾向。

稼動…昭和61年11月  
建設費…約53億円  
年間経費…6億2,847万円

### 小畔の里クリーンセンター



埋め立て可能残容量は、平成25年度末現在で約27,500㎡。全体の12.9%に相当します。

稼動…平成元年4月  
建設費…約12億円  
年間経費…4,566万円

\* 年間経費は、平成25年度実績の概算額。

## ごみ処理の経費

ごみ処理の経費は、国が定めた一般廃棄物会計基準で算出しています。

平成25年度のごみ処理の経費は、約53億7976万円で、平成24年度と比較すると2億733万円、割合では4.01%の増額となっています。

ごみ処理にかかる経費は、ごみの収集に関する収集運搬部門、焼却処理等に関する中間処理部門、リサイクルに関する資源化部門、埋め立て処分に関する最終処分部門、管理部門の5部門で使われています。

このうち、最も経費がかかっているのは中間処理部門です。平成25年度は、機械類の消耗部品の交換経費等が増加しています。

収集運搬部門は、業務のさらなる見直しにより、1億2839万円の経費を節減しました。

資源化部門では、機械類等の維持管理費として7521万円の増額となっています。

このように、公衆衛生の維持や生活環境を保全するためのごみ処理には、多くの経費を必要とします。1日当たりに換算すると、約1474万円の経費がかかっていることとなります。

### 焼却

#### 中間処理部門

資源化センター・東清掃センターの人員費、業務委託費、物品購入費、施設の維持補修費など。平成25年度の可燃ごみ搬入量は年間約88,862 t。焼却時に発生した熱の一部は、PiKOA(ぴこあ)の温水プールなどに活用。

### 埋立

#### 最終処分部門

小畔の里クリーンセンターの人員費、業務委託費、物品購入費、維持補修費など。平成25年度は年間で約168 tを埋め立てたほか、約2,781 tの処分を民間事業者に委託。

#### 管理部門

収集運搬や中間処理など、ごみ処理を円滑に行うための管理経費など。

### リサイクル

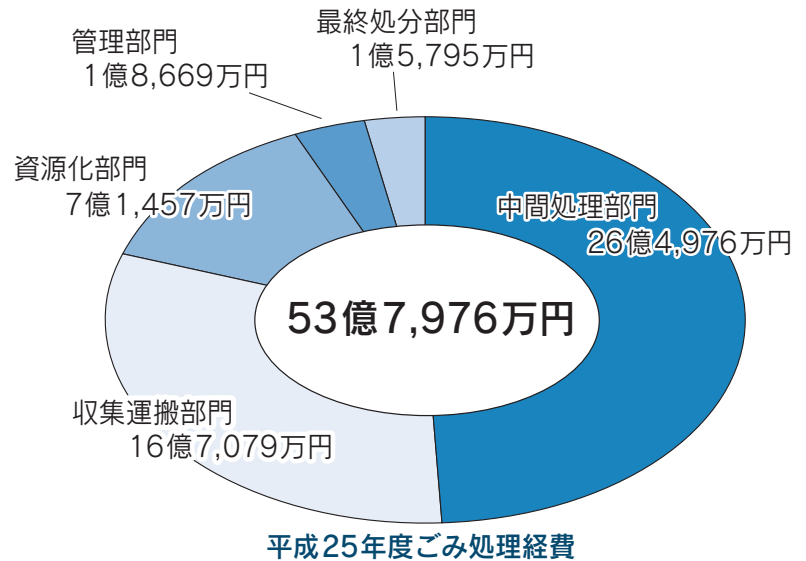
#### 資源化部門

リサイクル施設・草木類資源化施設などの人員費、業務委託費、物品購入費、維持補修費など。平成25年度、リサイクルした資源物の売却益は、約2億500万円。

### 収集

#### 収集運搬部門

市内約9,150か所の集積所から、ごみを収集するための人員費、収集委託費、車両の購入費や、粗大ごみ収集等にかかる経費。



## ごみ処理の今後

ごみを安全に、かつ衛生的に処理するためには、廃棄物処理施設や最終処分場の補修や修繕が必要です。

また、ごみの再資源化等により天然資源の消費を抑え、よりよい環境を次世代に引き継ぐために、循環型社会を推進することも必要です。

現状、家庭から出される可燃ごみの中には、リサイクルが可能な資源、特に菓子箱や包装紙、衣類などの混入が多く見られます。これらの資源を適切に分別することで、廃棄物処理施設への負担を軽減し、資源物の売却収入を増やすことができます。

市では、可燃ごみに含まれる紙類や布類を分別し、排出しやすくするため、紙類の排出機会を増やし、布類も集積所に出せるモデル事業を10月から名細地区で実施しています。今後も効率的な

ごみ処理を引き続き行うためには、ごみの減量・分別を進めていくことが重要です。市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

